

日本地球電気磁気学会会報(第97号)

1983年2月23日

日本地球電気磁気学会
東京都文京区弥生2-4-16
学会センタービル
(財)日本学会事務センター内
電話 (03) 815-1903

I. 第73回総会ならびに講演会開催のお知らせ

電気通信大学のお世話により下記の通り開催されます。

1. 期間 4月25日(月)~27日(水)
2. 会場 電気通信大学
3. 講演申込みおよび予稿集原稿送り先

地球内部関係は

〒606 京都市左京区吉田二本松町
京都大学 教養部
住友 則彦 宛

地球外部関係は

〒611 京都府宇治市五ヶ庄
京都大学 超高層電波研究センター
松本 紘 宛

締切り 3月19日(土) 必着

予稿集原稿は、同封用紙に黒インクまたはボールペンで丁寧にお書き下さい。用紙がさらに必要な場合は、学会事務センターあて直接御請求下さい。

4. ULF波動、磁気異常及び永年変化に関する論文はポスターセッションとして募集いたします。プログラム編成の都合で若干調整させていただくこともあります。
5. 田中館賞候補者推薦および総会議題の申込みは、3月25日(金)までに会長宛書面でご提出下さい。

送り先 〒113 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学理学部地球物理研究施設 小口 高 宛

6. 締切り日を厳守して下さい。締切り日以降に到着した申込みは自動的に却下します。電話に

よる申込みや遅延依頼は受けません。

7. 講演時間は1講演当たり10分以内とします。

8. 非会員のみによる講演申込みは受けませんので御注意下さい。また同一演題の講演を二つに分けて申し込むことは自粛して下さい。

II. 会場案内

電気通信大学

東京都調布市調布ヶ丘1-5-1

TEL (0424) 83-2161 (代)

講演会会場……………B棟大教室

総会, 特別講演会会場……………講堂



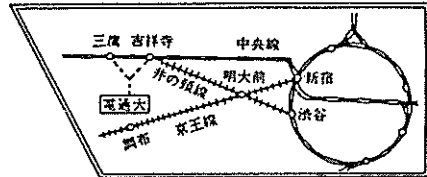
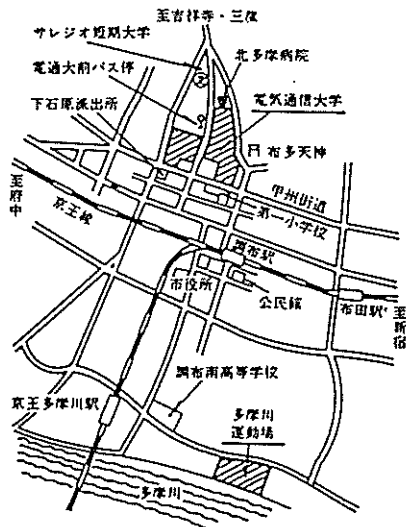
なお、駐車場がありませんので、自動車、オートバイ等での来場は、御遠慮下さい。

交通機関

京王線……………調布駅下車徒歩7分。

国鉄中央線……吉祥寺駅又は三鷹駅下車調布行バス(所要時間20~25分)で電気通信大学前下車。

案 内 図



Ⅲ. 会場付近の宿泊所案内

	様 式	室料(1名分,円)	収容人員(名)	
マロウド・イン東京	洋 シングル	6,000	} 約 320	東京都府中市若松町1-6378-1 TEL 0423(69)1111 (京王線東府中駅前)
	洋 ダブル	7,500~10,000		
	洋 ツイン	8,000~ 9,500		
ビジネスホテルサンライト	洋 シングル	5,000	} 約 70	東京都府中市寿町2-3-9 TEL 0423(60)3111 (京王線府中駅徒歩5分)
	洋 ツイン	8,500		
よみうりランドホテル本館 別館	洋, 和, 和洋	5,000~10,000	約 70	東京都稲城市矢野口3294 TEL 044(955)6043 (京王相模原線よみうりランド駅)
	和洋(4名室, 2段ベッド)	3,500	約 60	
よみうりランド会館 本館 別館 "	和(5名室) 和(8名室) 和洋(12名室, 2段ベッド)	5,000 (二食付)	約 800	東京都稲城市矢野口3294 TEL 044(966)1137~8 (京王相模原線よみうりランド駅)

申込み、問合せは直接お願いします。

各駅所要時間 調布-東府中…快速5分, 各停9分

調布-府中…特急5分, 快速7分, 各停11分

調布-よみうりランド…6分

Ⅳ. 第12期(昭和58年4月～60年3月)役員選挙結果

次の方々が当選されました。

1. 会長 有効投票数 140

小口 高 50 次点 長島 一男 27

2. 評議員 有効投票数 155

平尾 邦雄 (前会長) 小嶋 稔 48

福島 直 81 広野 求和 44

大林 辰蔵 80 行武 毅 42

加藤 進 65

上山 弘 62 次点 木村 磐根 41

前田 坦 55

力武 常次 53

3. 運営委員 有効投票数 156

鶴田 浩一郎 61 福西 浩 37

本蔵 義守 50 飯島 健 36

小川 利紘 49 恩藤 忠典 36

松本 紘 46 広岡 公夫 36

安川 克己 46 住友 則彦 34

国分 征 44

大家 寛 44 次点 平沢 威男 33

丸橋 克英 38

佐藤 哲也 37

4. 運営委員の役割分担を次のように決めました。

総務 飯島(東大理)

会報 小川(東大理)

会計 本蔵(東工大理)・丸橋(電波研)

渉外・学外連合 国分(東大理)

JGG担当 安川(神戸大理)・大家(東北大理)

大会プログラム 安川(神戸大理)・松本(京大電波センター)・住友(京大養)

大会担当および名簿編集 鶴田(宇宙研)・佐藤(広島大)・福西(極地研)・

恩藤(電波研)・広岡(富山大)

V. 日本学術会議第13期会員選挙について（学術会議中央選管委員長より）

1. 前回（第12期，昭和55年）の選挙の有権者の方へ

前回の選挙の有権者については，提出されているカードにより，本年資格審査が行われました。

これに関し，日本学術会議中央選挙管理会（以下「中央選挙管理会」という。）から登録用カードを再提出されるよう通知（昭和57年6月30日付）のあった方以外の方は，引き続き，有権者名簿に登録されますから，改めて登録用カードを提出する必要はありません。

なお，提出されているカードの記載事項に変更があった場合は，「4. 有権者等の異動の届出について」により速やかに有権者異動届を提出してください。

また，前回の有権者名簿に登録された方が，その所属する部又は専門の変更を求めようとする場合は，登録のしなおしをする必要がありますから，様式第2の「所属部又は専門変更届」により，登録用カード用紙を請求してください。

2. 今回（第13期，昭和58年）の選挙に有権者となることを希望される方へ

(1) 今回の選挙に新たに有権者となることを希望される方は，中央選挙管理会へ様式第1により個人で登録用カード用紙を請求してください。

(2) 大学（短大を含む），高専，研究所，学協会（以下「機関」という。）に所属されている方は，その所属機関を経由して中央選挙管理会に登録用カード用紙を一括請求されてもかまいませんが，機関からと個人の両方から重複して請求しないように，特に注意してください。

3. 登録用カード用紙の送付及び提出について

登録用カード用紙は，請求あり次第，個人の場合は，直接請求人あてに送付します。また，機関を経由して請求された場合には，当該機関へ一括送付します。登録用カード用紙に所要の事項を記入の際は，登録用カードに同封した登録用カード記入要領を十分お読みになったうえで記入してください。（認印のもれ，記入もれ，「口頭による業績報告」の資料のないもの等は受け付けられませんから，注意してください。）

第13期会員選挙のための登録用カードの受付期限は，昭和58年2月28日ですが，なるべく早く中央選挙管理会に提出してください。

4. 有権者等の異動の届出について

有権者は氏名，本籍，住所（住居表示の変更も含む），勤務機関及び職名，勤務地等のいずれかに異動があったとき，又は，博士の学位を取得したり，名誉教授の称号を授与された場合には，その都度速やかに，様式第3により「有権者異動届」を中央選挙管理会に提出してください。これを怠ると有権者の権利を行使できないことがあります。

また，新たに有権者となることを希望される方で，登録用カードを提出し，有権者名簿に登載される前に上記の異動があった場合も，異動届を励行してください。（この場合，「有権者登録申請中」と明記してください。）

なお、有権者が死亡した場合は、その旨を遺族又は関係者から届け出てください。

5. 有権者への投票用紙の送付について

中央選挙管理会は、投票用紙を選挙期日の21日前(昭和58年11月4日)までに有権者から提出されたカード記載の住所あてに到達するよう郵送しますが、もしその期日までに届かない場合には、有権者は選挙期日の14日前(同年11月1日)までに様式第4により「投票用紙請求書」を中央選挙管理会に到達するように提出してください。

提出先 〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議中央選挙管理会

VI. 第18回IUGG/IAGA総会に関する情報

第18回IUGGおよびIAGA総会は、1983年8月15-27日の期間西独Hamburgで開催されます。この総会に際して開催されるIUGGシンポジウムおよびIAGAセッションともに講演申込締切は1983年3月15日と定められています。シンポジウムの内容および発表論文申込手続、登録・宿泊申込案内などはサーキュラーに掲載されています。入手希望者はLocal Organizing Committee for IUGG 1983, Hamburg Messe und Congress GmbH, Postfach 30 23 60, D-2000 Hamburg 36, Federal Republic of Germanyあて請求して下さい。

なおIAGAセッションに関する詳しい内容は、IAGA News No. 21に掲載されています。これまでIAGA学術総会に出席された方々と、送付請求をされた方々にはIAGA Newsを自動的にお届けしていますが、新しく今後IAGA Newsの配布を希望される方々は、氏名と宛先を英文と邦文で書かれて

〒113 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学理学部地球物理研究施設 福島 直
あてお申出下さい。

VII. その他

1. 会員の皆様への情報伝達をよりよくするために、今期からは年6回の会報発行を目標にします。
学会関連の情報をお持ちの方は係(東大理 小川)まで御連絡下さい。
2. 三菱財団より昭和58年度自然科学研究助成の応募案内(締切日 5月28日)が届いています。
詳しくは総務(東大理 飯島)まで御問合せ下さい。
3. 賛助会員の申込み書式を入用の方は総務までご連絡下さい。
4. 昭和58年度も引続き在学中の方は6月末日までに学会事務センターあてに在学継続届を提出して下さい。提出されない場合は会費減免の特典を受けることができません。

在 学 継 続 届

氏名 _____ 同ローマ字 _____

所属大学・学部・学科 _____

学年 学部・大学院修士・大学院博士 年 _____

(昭和 5 8 年 4 月からの学年次)

研究テーマ _____

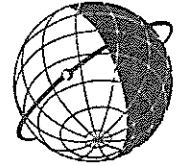
指導教官署名 _____

日 付 _____

国際地球観測百年記念講演会・展示会

日 時： 1983年3月15日(火) 15時—16時30分

会 場： 日本学術会議講堂(東京都港区六本木7-22-34,
地下鉄千代田線乃木坂駅, 原宿寄出口左側際)



講 演 座長 福 島 直(東京大学理学部教授)

上 田 誠 也(東京大学地震研究所教授)： 固体地球科学の革命

樋 口 敬 二(名古屋大学水圏科学研究所教授)： 極地—気水圏像の確立へ—

大 林 辰 蔵(宇宙科学研究所教授)： 科学衛星への途



以 上

記念展示会： 同日 13時—17時

於 日本学術会議1階ロビー

地球とその自然環境を解明するために幾多の国際協力観測事業が行われてきた。1982—83年は、世界最初の国際協力事業であった第1回国際極年が実施されてから100年目、第2回国際極年実施後50年、また国際地球観測年実施後25年目にあたる。わが国が南極観測事業を開始し、宇宙空間研究に向っての一步を踏み出したのも国際地球観測年が契機となっている。

国際地球観測が行われるようになってから100年という意義深い年を迎え、地球とその自然環境の理解に向けて結集されてきた先人の努力による成果を顧み、また将来の研究への展望を語っていたべく講演会を開きますので、ご来聴を歓迎します。また記念展示会もご見学下さい。(入場無料)

なお当日13時30分—14時30分の間、講堂において記念式典が開催されます。記念式典へのご参加も歓迎します。

